

新高通信



第70号

秋田県立新屋高等学校

心に残っている新屋高校の風景～私の好きな場所～

校長 櫻田 博憲



秋田市内の高校で高台に言え立つと秋田高校で新屋高校でしようか。どちちらも少し息がはずむ坂を登って校舎に辿り着きますが、雄大な眺めなら新屋高校です。その風景を一幅の絵のように楽しめるのが教室棟4階廊下1Eの奥にある4枚のガラス窓です。今、太平山は前岳と中岳が黒ずみを増す中で最高峰の奥岳が鮮やかに白い輝きを放っています。雄物川もしっか

りと幅のある水面を見せ、時に陽の光をきらきらと反射させます。堤防の手前には新屋の町並が、川向こうには秋田市中心部もはっきりと見渡せます。

窓に顔を近付け左を覗き込むと、五城目町の森山、男鹿の寒風山や新山、本山の姿も。

“眼下に見下ろす”と言います。飛行機に乗って空から見る景色、山や塔（タワー）や高層ビルからの眺望に、人は心地良さを覚えます。

新屋高校は県内でも贅沢な学校です。世の中を俯瞰する心を養える風景があるから。

今年度の進路状況について

進路指導主事 青山 進

国公立大の前期発表も終え、多くの卒業生の進路が決定してきています。今年度の進路状況について概要をまとめてみたいと思います。

【進学】国公立大学の合格者数が19名となり、目標の20名まであと1人になりました。19名全員がAO・推薦入試での合格です。各大学でAO・推薦枠が拡大したことも一因としてありますが、生徒・先生が一丸となって面接・小論文の準備をしっかりとこなせたことが合格へつながったと思います。一方、一般受験前期日程での合格者は1名も出ませんでした。AO・推薦枠の拡大に伴う一般枠の減少に加え、最後のセンター試験ということもあり、安全志向から地方の国公立大が難化したことが大きく影響したと思われます。受験生の安全志向によって中堅私立大学の志願者増も予想されていましたが、本校生は東北学院大学・東北福祉大学などを中心に大健闘しました。これから中期・後期日程に臨む受験生は、気持ちを切らすことなく登校し、受験勉強を続けています。彼らの努力が報われることを祈らずにはられません。

【就職】求人は今年度も好調でした。2月ぐらいまでは未だに採用数を確保できなかった企業から求人票が送付されたり、求人に関する電話がかかってくる状況でした。しかし、新型コロナウイルスの影響で来年度の求人はまったく見通しがつかなくなりました。公務員試験に関しては近年好調を維持しております。公務員試験は勉強量が合否の鍵になってきます。希望者は早めに準備に取りかかってください。

進路志望・決定状況

3月11日現在

進路状況	合計	国公立大	私大	短大	専門校	民間	公務員	全く未定
志望者数	171	26	66	15	41	12	3	0
内定者数	153	19	63	15	40	12	3	0

卒業証書授与式

第35回卒業証書授与式が、3月1日(日)午前10時00分から第一体育館において挙行されました。式では、代表の高谷翔太さんに櫻田博憲校長から卒業証書が授与されました。校長式辞の後、在校生代表の山上颯太さんが「高校生活で強く記憶に残っているのは、いつも私たちの先頭に立ち、頼もしく導いて下さった先輩方の姿です。これまで先輩方が築きあげてきた歴史をさらに良い形で引き継げるよう、在校生一同努力していきます」と送辞を述べると、卒業生代表の山下海斗さんが、「目まぐるしく変化する国際情勢や社会の中でも、自分の進む道を見失うことなく、日本のみならず、ふるさと秋田や周りの人を支えてゆく存在として、心豊かにたくましく生きていきます」と答辞を述べました。

今年は新型コロナウイルス感染防止のため、生徒と教職員のみでの参加となりました。例年より少ない人数での式となってしまいました。卒業生の皆さんは非常に立派な態度でそれぞれの門出を迎えていました。閉式後、卒業生退場の際に、先生方が紙の花吹雪を降りかけながら卒業を祝うと、3年間の思いがこみ上げ涙する卒業生もいました。

その後、各クラスで最後のHRが行われ、171名の卒業生が新屋高校を巣立ちました。



表彰式・記念品贈呈式・同窓会入会式

3月1日(日)、皆勤賞22名、特別活動賞27名、生徒会3名、献功労者2名に対する表彰が行われました。また、記念品贈呈式と同窓会入会式についても説明が行われました。クラス幹事や部活動代表の生徒たちは、今後同窓会の先代と連携し、OB・OGとして活動の中心役割を担うこととなります。

一般選抜合格発表

令和2年度一般選抜合格発表が、3月13日(金)午後4時に行われました。募集人員130名に対し、志願者数は146名、志願倍率は1.12倍でした。ここに前期選抜合格者の45名を加え、令和2年度の入学生175名が全員決定しました。

後期校内研修報告

研修部主任 佐々木 渉

今年度は授業改善推進プロジェクトとして、対話と協働を通して課題に主体的に関わる生徒の育成、をテーマに研修を行いました。

9月には、『基礎的知識・技能の習得を図るとともに、質の高い理解を図るための「対話」と「協働」を重視した授業の工夫』をテーマに、国語、日本史、音楽の研究授業を行い、研究協議会では総合的な探究の時間で使用している教具を用いて対話と協働による協議を行いました。

10月には、横浜国立大学名誉教授高木展郎先生を講師にお招きして、「カリキュラム・マネジメント推進について」の教育講演会を実施し、未来を生き抜く高校生に求められる力と、その力を付けるためにどのような授業作りをすればよいのかについて講話をいただきました。

12月には、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の各学年部の活動について情報共有し、講師としてお招きした秋田公立美術大学教授藤浩志先生から来年度の探究活動につながる指導助言をいただきました。

その他の研修も含めた今年度の研修については「研修収録」にまとめ、本校ウェブサイトに掲載する予定です。

保健室から

養護教諭 豊嶋 亜紀子

今年度の保健室来室者数は763名(3月4日現在:内科的理由595名、外科的理由168名)で、昨年度とほぼ同数でした。また、出席停止者数は13名(インフルエンザ8人、感染性胃腸炎2名、溶連菌2名、その他の感染症1名)と大幅に減少し、皆さんの感染症予防への意識の高さが伺える結果となりました。しかし、11月に実施した学校生活アンケートでは、例年よりも朝食摂取率の低下や就寝時間が遅くなるなど生活習慣の乱れが目立ちました。食事・睡眠・運動は健康な生活をおくるためにも特に重要な要素です。4月からは様々な行事や部活動の大会が控えていることから、長期休業中に生活リズムを乱さないよう心掛けて生活しましょう。心身の健康があってこそ様々な事に挑戦できます。今回の休業中にじっくり自身と向き合っ、心と体を整える機会にしてみても良いですね。4月に元気な皆さんと会えることを楽しみにしています。